森のなかま
２０２０年　１２月号
NO.１５０（継続２９５号）
NPO法人かながわ森林インストラクターの会　http://www.forest-kanagawa.jp　　発行人　久保　重明
〒243－0018　厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号　TEL046－297－0301・Fax046－297－0302

＜森林部会＞　間伐研修会

日時：　2020年10月24日(土)　9:00～15:00　晴れ
場所：　塚原ボランティアフィールド
講師：　森林部会　佐藤(武)⑤　滝澤⑤　小野⑦　石川⑫　鈴木⑭
研修生：１３名

＜参加者感想＞　　(記　岡村　寛⑯　写真　岩田　典義　⑭)

昨年の16期生養成講座終了後、新型コロナ感染拡大防止対応の関係で活動が制限され９月から活動が徐々に再開し、研修とは言え久々の間伐作業が楽しみでした。今回の研修は、ベテラン講師の方々の指導による間伐作業の一連の流れの理解はもとより、指導者としての心構え・基礎技術、及び安全作業を含めた指導方法等幅広い技術を習得することでした。

研修生は５班13名と少人数であったことから、ほぼマンツーマンとなり、個人個人に応じた研修ができたと思います。具体的には、一人で一連の作業をこなし、自分の技術のいたらなさが確認でき、改善につながり非常に有益でした。久々の作業とはいえ、頭ではわかっていても体がついていかず、受け口の作成にて鋸を水平に挽いているつもりでも、癖がでていつの間にか斜めに挽く等欠点がでてしまい更なる自己研鑽が必要だと感じました。その他、講師からさりげなくノウハウを伝授され非常に有意義でした。例えば以下のとおりです。

・掛かり木処理において、<ツル>の左右の厚さの微調整及び中心点付近のみ<ツル>を残し、樹木を回転させ伐倒方向を変更する。本件については、意見交換においても他研修生からも“ツル”の重要性が強調されていた。
・斜面で且つ不安定な場所では、足場確保の一方法として過去に間伐され近場で整理されていた丸太を一時借用し活用する。

なお、今回の研修場所は、急斜面で且つ前日の雨に濡れた不安定な足元だったので、“足元確認よし”の安全目標を掲げ、安全作業に努め全員ケガもなく、無事終了するとともに、各々技術力向上につながりました。

最後に講師及び事務局方々にこのような有意義な企画をしていただき感謝を述べたい
と思います。と同時に我々もその期待に応えていくように努力していきます。

参加者一覧

期	氏　名	班	期	氏　名	班	部会	期	氏　名	班
13	星野澄佳	1	16	鈴木康浩	4	講師	5	佐藤武晴	1
14	牧石　稔	2	16	中澤靖彦	5	講師	5	滝澤洋子	2
14	水野安則	3	16	永田裕徳	1	講師	7	小野幸広	3
15	竹内明彦	4	16	原田　明	2	講師	12	石川裕一	4
16	池田　修	5	16	堀口俊司	3	講師	14	鈴木　淳	5
16	岡村　寛	1				ｽﾀｯﾌ	14	小松立史	
16	久次米久美子	2				ｽﾀｯﾌ	15	大見文夫	
16	小林照夫	3				部会長	14	岩田典義	

森のめぐみ　シリーズ

枠組は桜の小枝です

第３６回　草木染の始まり

東京大学名誉教授　谷田貝　光克　氏

可憐なまでに清く澄み切った青色の花びらのツユクサ、黄色から橙黄色の花を咲かせる紅花、野に一面に緑の葉を広げるヨモギ、野に咲く草花を見て古代の人はその色を身に付けたいと思ったことでしょう。そしてその色を衣に摺りつけたのです。草木の花や葉を直接衣服になすりつける摺り染めが草木染の始まりです。

「月草に衣は摺らむ朝露に濡れての後はうつろひぬとも」(万葉集巻 7)　ここでいう月草はツユクサのことです。朝露に濡れて色があせてしまうかもしれないけれど　衣にツユクサを摺って染めよう　と詠った歌です。　明るく澄んだ夏空のもとに空よりも青く道端に咲く可憐なツユクサ、朝咲いて夕方にはしぼんでしまうはかないツユクサですが、古代の人たちはその色を愛でて衣に摺りつけたのです。

ツユクサ（露　草）

ツユクサは万葉集には次のようにも歌われています。「朝(あした)咲き夕は消(け)ぬる月草の消(け)ぬべき恋も我れはするかも」(万葉集巻 10)　朝に咲いて夕方にはしぼんでしまうツユクサのようにはかない恋でも私はするでしょうと詠ったこの歌ははかないツユクサの命とツユクサの清純ともいえる澄んだ青さに自分の恋を例えようとしているのです。

古代から詩歌に歌われてきた草木の鮮やかな色、そしてそれを衣に摺りつけることが行なわれてきましたが、色あせやすい摺り染めに飽き足らず草木の色を採りだして染める染料としての利用、すなわち草木染めに進んでいったのは自然の成り行きでした。

ところで紀元前1300年頃の古代エジプトのツタンカーメンの墓から見いだされた布は藍で染められていました。古代エジプト、ギリシャ、ローマ、そして中国では紀元前数千年前から草木染めが行なわれていたのです。わが国では摺り染めに代わる草木染めに似た染色は藍や茜で6世紀の仏教伝来以前にも行なわれていましたが草木染めが本格的に行なわれだしたのは仏教伝来以降でした。

飛鳥時代に入り推古天皇の603年には聖徳太子によって冠位12階が制定され、朝廷の階級が服装の色で分けられるようになって染料の種類も増えていきました。当時としては紫草、紅花、刈安、藍、茜、黄連、クチナシなどの植物が染料として用いられていたことが知られています。

ベニバナ　(紅花)

植物から抽出した染料を布に染め付けるだけでは色が繊維に付着するのが完全ではなくしだいに染料が布から離れ、色あせてきてしまいます。そこで染料を繊維に定着させることが必要になります。その目的で使用するのが媒染剤です。媒染は金属塩などで処理して染料を繊維に固着させる方法ですが、奈良時代になると媒染も行なわれるようになり、灰汁(あく)や鉄漿(おはぐろ)などが媒染剤として使われだし、平安時代に入ると明礬(みょうばん)も使われるようになりました。現代のわが国での草木染めの原型がこの時代にできあがったのです。と同時に使用される植物の種類の数も増えていったのです。　明治に入りドイツから合成化学染料がもたらされるまでは草木染めはそれぞれ、その地域に生育する植物を用いて独自の染物として利用されてきました。

八丈島に生育する八丈刈安やタブノキで染色した黄八丈、奄美大島に伝わるシャリンバイの泥染めの大島紬、それに京友禅、結城紬など、今では化学染料が使われるようになっているものも元をただせば草木染めなのです。各地に伝統的な草木染めによる織物が、化学染料が普及した今でも愛用されています。化学染料では表しえない自然の風合いを持つ草木染めには人をひき付ける不思議な力があるのです。

（イラスト）　広報部　加藤　優美　⑮

活　動　短　信

今回の掲載はR2年10月3日-11月7日分です。
寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

12月(師走)(旧暦11月霜月)の二十四節気

大雪　12/7頃 本格的な冬の到来、動物たちも冬ごもりをはじめます。あわただしい師走の始まり。	**冬至**　12/22頃 ご存知、昼が一番短い日。次の日からは、太陽も元気を取り戻すので、運気アップの日とされている。

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です。
(できればWord、メール直筆でもOK。Excelはできるだけ避けてください。改行等の処理に手間を要しますので)
写真もあれば1枚添付ください。

◆ **活動団体・活動名　等**

日　日付(できれば時間と天気も)
場　場所　(例:相模原市緑区　長竹承継分収林)
参　参加者　人数
県　神奈川県 環境農政局 緑政部
　　水源環境保全課 水源の森林推進グループ
財　(公財)かながわトラストみどり財団、看　看護師
スタッフ　例 小田原市森林組合XX様
　　例 川崎市公園緑地協会・XX様
イ　インストラクター　(○数字:期)　研:研修枠
以下の**本文を概ね400字前後を目安**として執筆ください
リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェックをお願いします。(執筆者名もお忘れなく！！)
活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします。

◆ ジオパークの矢倉岳に登ろう！

日　令和2年10月3日(土)8:00-15:00
　　曇りのち晴れ
場　県立21世紀の森～矢倉岳(標高870M)
参　9名(男性2名:女性7名　)
スタッフ　21世紀の森　碓井所長様　辰巳様　飯田様
イ　L上宮田⑪

天気は上々！　21世紀の森森林館～万葉公園～山伏平～矢倉岳～山伏平～セントラル広場～森林館が今日のハイキングルートです。コロナの影響下、参加者からは今年初めての山(ハイキング)だと愉しみな様子も伺えました。

受付で検温と体調確認をおこないオリエンテーションを開始、21世紀の森、所長の碓井さんよりご挨拶をいただき安全への配慮と「箱根ジオパーク」について触れ、登山口である万葉公園まで車で移動します。万葉公園では富士の雄姿や野鳥愛好家がサシバの渡(鷹柱)の飛来を待つ姿に目を奪われ、準備体操後散策を開始しました。コクサギ・山椒・マツカゼソウ・アブラチャン・クロモジの香り体験、ヤマボウシ・アケビ・ガマズミの秋の実食体験、紅葉した木々「ツタウルシ」や「トリカブト」の(薬効にも触れ)、カツラの葉の香りが漂う中、数回の休憩をはさむと、もう山伏平です。ここから急坂を登り11時40分山頂到着。

昼食休憩をはさみ12時20分下山開始。途中、キバナアキギリが顔を出し(花粉の運び方実践)、間伐が進んだ明るい杉・檜林を進むと鹿やなら枯れの被害木が多く、生態系についても触れます。沢沿いには「ムラサキホウキタケ」、その先に「オオイチョウタケ」の群生も発見！皆大歓声です。(収穫しお持ち帰り頂きました)

ケガもなく無事下山、アンケートからも植物や木々の役割(名前)なども知ることができとても良いハイキングだったと嬉しい感想を頂きました。五感をフルに使ったジオパークの矢倉岳散策を楽しんでいただけたようです。　　(記　上宮田　幸恵⑪)

(写真提供　碓井所長様、　参加者　杉崎様)

◆ 川崎市立南菅小学校 環境・エネルギー学校派遣事業 ～かながわ環境教室～

日 令和2年10月19日(月)10:00-12:30 曇り
場 川崎市多摩区菅馬場3-25-1 南菅小学校
参 4年生44名および担任教師2名
イ L井出①、足立④、宮本④、國弘⑭

神奈川県(環境計画課)では、環境・エネルギー学校派遣事業「かながわ環境教室」を実施しています。当会(普及啓発部会)は、次の4つのテーマをエントリーしています。

「木がためこんでいる二酸化炭素の量を測ろう」、「土の中の生き物ウォッチング」、「水の中の生き物ウォッチング」、「森が『緑のダム』になることがわかる実験」。

今回の学校は「土の中の生き物ウォチング」をテーマに、学校林で土を採取して、生き物を見つけ出し、その土地の「自然の豊かさ」を調べました。

1. 学校林で土を採取(写真)。
2. 土を教室に持ち帰り生物を抽出。
3. 見つけた生き物の種類を同定。
4. 土壌生物は生息環境毎に点数化されており、見つかった生物の点数を集計することで、その土地の「自然の豊かさ」を知る。
5. 土壌生物の役わり、つながりについて解説。

落ち葉の下などの土の中には、普段目にすることのない土壌生物が生息しています。これら土壌生物を探し観察することで、土の中の生物の存在と多様性に気付き、土壌生物の役わり、生き物のつながり(生態系)について理解を深めることができました。

(記 写真 井出 恒夫 ①)

◆ 相模原市立津久井中央小学校 森林の間伐体験

日 令和2年10月27日(火) 9:20～14:15 曇り
場 相模原市緑区澤井 大日野原地区
参 22名(大人 4名・ 5年生 18名)
財 みどり森林課 古舘様
スタッフ やませみ職員 5名 看護師 1名
イ L小野⑦、佐藤⑤、内野⑨、松石⑬

3班編成各6名の少人数だが事前学習を大切にしていて、学んだことを実践するのは生徒達にとって貴重な体験となった。

間伐場所の人工林に入ると「少し暗い！」と生徒が言う。選木は済んでいる。足元の灌木を剪定ばさみで切り、倒す方向の確認、目標の目印を立て、ロープを掛けて生徒達が安全にロープを引ける方向に仮止め、などの段取りを簡単な説明をしながら行う。

受け口、追い口の説明の時、いつもながら「この木を体験で伐らせてもらうけれど、大切な命をいただく、生きている木を相手にする大変危険な作業だ」と話す。生徒たちの真剣な眼差しを感じる。

受け口の印を書き、いよいよ鋸を使う。立ち位置、鋸のひき方など実際に行いながら説明をし、順番に切っていく。力が入り過ぎて上手くいかないので手を添えて一緒に切りそのまま手を離すとコツをつかんで上手くいく。二回りで受け口の完成、方向が合っていることを確認し、追い口の印を書きツルを残すことも説明。

追い口は鋸にもなれて上手く切れている。ツルを残す位置まで切ってロープを引く位置に誘導し、試しに引いてみると手ごたえがあり、一人残した生徒もロープ引きに加わり全員でロープを引くと5回目で大きな音を立ててほぼ目標の位置に倒れ、生徒たちの歓声が上がった。

枝を払い、1.5mの玉切りも疲れると交代しながら生徒たちが進んで行う。コースターにするには太すぎて元から7.8番玉でコースターづくり。最初の切り目だけ入れると交代で切り、協力ができる生徒達だった。

無事に作業を終えて、切った木の根元に集まりツルが裂けていること、空を見上げて光が差し込むことを確認した。

玉切りした丸太を元玉から順に先生が1本担ぎ、生徒達が2人で1本、計4本を下まで下ろした。かなりの重さであったがみんな頑張っていた。

振り返りの会で、生徒達は「楽しかった」「思っていたより大変だった」「達成感を感じた」など感想を述べ、まとめシートへの記入も速やかだった。楽しい活動であった。　（記：内野　ミドリ⑨）

かながわしずくちゃん Facebook は下記URLで見ることができます。

https://www.facebook.com/kanagawa.sizuku

◆ 横浜市立あざみ野第一小学校 間伐体験

日　令和2年10月27日（火）9:00～15:00　晴れ
場　県立21世紀の森　風切り水源林
参　108名（5年生）　11名（先生）
財　大木様、内田様
イ　L牧石⑭　高橋⑨　小沢⑨　山口⑪　松本⑪
上宮田⑪　松永⑪　西出⑫　古舘⑬　星野⑬
大友⑯　大森⑯　小林⑯

県立21世紀の森に9時集合～体調、注意事項確認、ハンズフリー拡声器の準備、ヘルメット・フェイスシールド・マスク装着で待機場所へさらに車で移動します。

そこには財団2名の方により12班体制の道具類がブルーシートの上に整然と並べられておりました。準備も万端で9:45頃の到着を待ちます。朝学校から出発し途中渋滞に巻き込まれた模様、1時間遅れで到着、素早く道具の配布装着、25分かけて間伐場所へ移動（選木、間伐手順、森林の大切さの説明を行い）ロープ掛け、間伐、枝落としそして玉切りとコースター作りまでを休憩をはさみ、安全に留意しながら着々と進めました。

間伐体験は12時15分に終了、20分かけて下山後、道具類返却から21世紀の森駐車場に戻り、森林館・工芸センター・ふれあいセンターの3か所に分かれ13時20分にやっと昼食です。

13時45分からは午後のプログラム開始、インストラクターは各班4人態勢で（森林・林業のお話）に趣向を凝らし、14時15分全てのプログラムを終了しました。バスに乗車した皆をインストラクター全員で見送ります。

振り返りでは、鋸の使い方、挽き方に苦戦するも慣れてくると上手になる姿が見られた事、木が細く、倒れる迫力をあまり感じさせてあげられなかった事、間伐場所までの道迷いでさらに時間ロスがあった事の改善方法やルートの明確化、研修を兼ねた経路整備をしてはなどの提案がされました。また作業の遅れる班にはリーダーの支援があり助かった事、午後のプログラムではインストラクターの連携が発揮された事、子供たちからも活発な質問が展開された事などを共有しました。

タイトな時間の中でも間伐の一連の流れを経験し森林について触れた貴重な一日となったようです。

（記　上宮田　幸恵⑪　写真　牧石　稔　⑭）

かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取組んでいます。
全国で5番目／NPO法人で初めて委嘱されています。

◆ 横浜市立川島小学校　間伐体験支援

日　令和2年10月29日(木)　晴れ
場　長竹承継分収林
参　84名(5年生児童71名　教師13名)
財　内田様　豊丸様
イ　L松本⑪　佐藤⑤　小野⑦　松山⑩　西出⑫
　　松石⑬　牧石⑭　小林⑯　竹内⑮

秋晴れの空には雲一つありません。9時45分に、韮尾根ふれあいの広場に到着した川島小学校の生徒達は、前日は高取山に登り、愛川ふれあいの村に泊まっていました。「舐めていましたけど結構きつかったです。今日はドキドキです」と、素直な子供達です。

早速ヒノキ林に入り、各班は所定の場所に到着して間伐体験開始です。間伐の意義と手順を簡

単に説明し、選木に移りました。ここで私が大失敗。隣の班との間隔を考えて選んだ木が太すぎて、受け口、追い口に予定より時間が掛かりました。さらにロープで引いた木は、太い枝が隣の木にがっちりと掛かり木となってしまいます。

ロープをかけ直し、左右に揺さぶりますが、なかなか落ちません。リーダーの松本さんの指揮で、ツルを切り、生徒9人に財団の内田さん、豊丸さんも加わって引っ張り、ようやく倒した時はみんなで歓声と大拍手。なんでしょう、この生徒達の一体感

コースター作り

は！怪我の功名ですね。林内の手頃な細い木は少なくなっていますから、選木は慎重にやらなくてはいけないと猛烈に反省しました。その後はみんなでせっせとコースター作り。倒した木は太いので、手頃な木を使用し、何とか時間内に1人一枚ずつのお土産ができました。

帰りのバスに乗る生徒から「木が倒れた時の地響きが耳に残っています」との感想をもらい、ホッと胸をなで下ろしました。

（記　竹内明彦⑮　写真　松本　保⑪）

◆ 横浜市立上星川小学校　間伐体験支援

日　令和2年10月30日(金)曇り
場　長竹承継分収林
参　94名(5年生児童89名　教師5名)
財　内田様　古舘様
イ　L 小沢⑨　小野⑦　齊藤⑧　松山⑩　松本⑪
　　西出⑫　星野⑬　松石⑬　牧石⑭　竹内⑮

空は厚い雲に覆われ、肌寒い朝でした。上星川小学校5年生89名と5名の先生は、バス4台に分乗して10時に到着し、早速9班に分かれます。9名のインストラクターが、ハンズフリーのマイクを使って各班を引率して現場の林へ向かいました。入口の道具置き場で、まずヘルメット、フェイスシールドを装着し、ノコギリの扱い方に注意を与えて、腰に付けてもらいます。子供達の顔は神妙です。

私の班の受け持つブロックは林内上部になったので、細いヒノキもまだ残っていて選木は簡単でした。生徒達は事前授業で、リーダーの小沢さんに間伐の意義や方法を学んで来ています。その成果で受け口と追い口も知っていて、理解が早いので助かりました。斜め切りも全員に経験してもらい、最後は全員でロープを引いて、見事倒すこと

ができました、拍手！！　枝払いの後、玉切りし、4カ所に別れてコースター作り。

お土産も出来て、さあ12時。腰を下ろせる平らな場所でお弁当を広げます。私たちも本当は近くで話したいところですが、適当な距離を取らねばならず、少し離れて食事となりました。生徒はそこがチョット物足りなそうでした。早く一緒に食べながら話せる時が戻ると良いね。

13時半、バスの中から手を振る子供達に大きく手を振って、別れを告げました。

（記　竹内　明彦⑮　写真　小沢　章男⑨）

◆ 第13回　県民参加の森づくり（除伐）

日　令和2年11月7日(土) 8:30～14:40 晴のち曇り
場　相模原市緑区青根(学校林)
参　41名(男32、女9)
財　大木様、藤本様
看　青木様
スタッフ　津久井郡森林組合、相模原市まち・みどり公社、青根地区の皆様(青根地域観光活性化委員会、旧・学校林創生協議会、サトウ草木)
イ　L松石⑬　水野⑭　祐谷⑯　飛田⑮　宇田川⑬　佐藤⑤　久慈⑯　齋藤⑧　原田⑯　篠原⑨　小林⑯

今回の現場は旧青根小学校の裏山にある学校林です。学校は4年前の火事で校舎を焼失し、中学校の校舎で授業を続けてきましたが、児童数の減少のために今年3月に惜しまれつつ閉校し、4月に隣地区の学校と統合されました。

地元青根地区の皆様からは「学校は無くなったが、今後はこの場所を観光に生かしていきたい。森づくりだけでなく地域の活性化にもご協力をお願いしたい」とご挨拶がありました。

裏山の頂上には太平洋戦争中、空襲から東京を守るための監視哨が設置されていたそうです。監視哨跡地は現在、展望広場となっており、その北側斜面には15～18年前に萌芽更新した雑木林が拡がっています。今回の作業は、その雑木林に侵入した低木(概ね樹高2m以下のもの)やササ類の除伐を行いました。現場はサンショウの仲間などトゲのある草木が多く、指にトゲを刺してしまった人も多かったらしく、皮手袋の着用を勧めたほうが良かったという意見がありました。

ボーイスカウトから8名の参加があり、担当したインストラクターから「作業や道具の手入れが丁寧で感心した。事前に道具の使い方等を指導できれば更に良かった。こういう団体の受け入れは森づくりの底辺を拡げるために良い」との報告がありました。

約1時間の作業でしたが、林内がスッキリとして見通しが改善しました。春には可憐な花を咲かせる林床植物が楽しめるかもしれません。

（記　写真　原田　明⑯　）

人も自然もいきいき 丹沢
丹沢の自然再生に取り組む　丹沢大山自然再生委員会のホームページでご覧ください。http://www.tanzawasaisei.jp/

やどりき水源林ミニガイド

「森の案内人」

12 月から 2 月までは、森の案内人はお休みです。

森の案内人はおりませんが、やどりき水源林を訪れることはできます。

なお、現在昨年の台風被害の復旧作業が進められており、立ち入り禁止の区域がありますので、訪問の際には、下記神奈川県のホームページにてご確認ください。

https://www.pref.kanagawa.jp/docs/pb5/yadoriki.html

「やどりき水源林ニュース」
http://www.forest-kanagawa.jp/4field.html#field02

●問合せ:
(公財)かながわトラストみどり財団
TEL：045－412-2255
FAX：045－412-2300
● ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ ： http://www.ktm.or.jp
E-mail: midori@ktm.or.jp

森のなかまは過去号もご覧になれます。
（ホームページ） http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01
（HP 担当 ： 井出恒夫）

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。

＜広報全般についてのお問い合わせ＞
黒川　敏史
Mail :
kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp
Tel ：080-5477-2206

＜電子配信会員向け担当＞　笠原
Mail: happy_kumakuma711@icloud.com

＜電子配信企業等ﾊﾟｰﾄﾅｰ様向け担当＞
柳澤　Mail: cherril@gk9.so-net.ne.jp

＜メール・手書き原稿送り先＞
【本誌】黒川　敏史
Fax: 0467-46-8650
電話連絡先：080-5477-2206
Mail :
kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

【別冊】阿藤　寿孝
Tel：045-433-4413
Mail: hisa-ato2@22.netyou.jp

原稿は随時受付けています。

やどりき水源林の秋

やどりき水源林ニュースからの情報です。

現在、水源林では、紅葉も終わりかけ、冬の装い。

水源林ニュースには復旧工事の状況や、秋の花、動物にくっついて種を運ぶひっつき虫の紹介が載っています。

3 月にはミツマタの花を観賞するイベントを計画しています。

3月 咲き誇るミツマタ

http://www.forest-kanagawa.jp/4field.html#field02
でご覧ください。

年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。
郵便振替口座 00230-0-2454
かながわ森林インストラクターの会
宛まで2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から
12 回／1 年間お届け致します。

編集人：　黒川　敏史
広報部:吉田郁夫　松本保
笠原かずみ　加藤優美
阿藤壽孝　竹内明彦
柳澤千恵美　小林照夫
武田昭典　中澤良夫

支援：　大原正志　江頭淑子

編集後記

★　毎年この季節に、庭でゴザを広げて干し柿を作っている母と祖母の姿を思い出します。昔は鳥のために枝にカキの実を残していましたが、今はカラスに先に食べられてしまう前に取っています。丁度良い頃合いでとるのが難しくなったと近所の人も嘆いていました。今外に干し柿を吊るすと、あっという間にカラスに食べられてしまうんだろうなぁ。
（笠原）

★世間は、コロナで対策と経済の二兎を追うんだ。とやってますが‥我々も、やどりきや学校関連対応など、忙しくなった秋でした。また、第三波が来て、活動が再度中止となり家にこもりっきりの生活に戻るんじゃないかと心配してます。
まだまだ、科学の進歩は不十分ですねぇ。それ以上に政治の前時代的な行動は開いた口がふさがりません。　（吉田）

★野外キャンプが大流行で、自分でキャンプサイト用の山を手に入れる方までいるようです！
自然を楽しむ方法はいろいろありますが最近チェアリングも人気があるとか？椅子一つあれば自然を楽しめる、それもいいですよね。（阿藤）

★学校活動の9か月分を3ヶ月でハードスケジュールをこなしています。自分の時間がなく、車の運転距離も 3 ヶ月で 1500 ㎞です。10 月末に生まれた孫にようやく会いにいってきました。お互いコロナ禍時なので長居はできず 30 分で帰ってきました。
息子嫁さんに成長の森への植樹参加申し込みを忘れないように依頼を受けました。　（松本）

★　すっかり気分が緩んでしまったところへ来た、新型コロナ感染第三波。どうやら 1 月末から 2 月まで続く可能性とか。自粛時代に又帰るのでしょうか？山にも森にも行かずに閉じこもってしまうのは、芸が無いなぁ、と独りごちています。（竹内）

★　先日県民参加で訪れた箱根は大渋滞でした。使わしてもらっていて言うのもなんですが、go to　は、ちょっと違うかなという気がします。　（黒川）